

---

### 3. 地区別の状況

---

#### 成東地区

---

山武市の南西部に位置し、九十九里浜から九十九里平野、そして下総台地の突端部を含む変化に富んだ地形上に位置します。

水稻を中心とした複合経営が実施されています。地区北部には観光いちご園が集中しており、国道 126 号沿道は「ストロベリーロード」と呼ばれています。また、草深は千葉県における落花生発祥の地と言われています。

耕地面積は 2,319ha で市全体の 40%を占めます。経営耕地面積は減少傾向で、特に畑の減少が目立つ状況です。経営体当たりの経営耕地面積は 2020 年に 2.8ha/経営体で、市全体の平均より高くなっています。また、経営体当たりの経営耕地面積は拡大傾向にあり、経営体への集約化や大規模化が進んでいます。

担い手の状況については、令和 2 年の農家数は 737 戸、農業経営体数は 527 件で、どちらも減少傾向にあります。

#### 山武地区

---

山武市の北部の下総台地上に位置し、山林や畑の他、多くの谷津田が分布しています。

露地野菜を中心に水稻・施設野菜・畜産の複合経営あるいは単一経営が行われています。野菜、いも、豆、花き類・花木、果樹の半分以上は山武地区で生産されています。地区の中でも睦岡地区では、古くから有機農業に取り組んでいます。市内で有機農業に取り組んでいる経営体の 44%に当たる 48 経営体が睦岡地区にあります。

耕地面積は 1,437ha で市全体の 25%を占めます。耕地面積は減少傾向にありますが、その減少割合は他地区より高い水準で推移しています。耕地面積のうち 76%が畑で、特に地区北部の市境付近で野菜の作付けが集中しています。令和 2 年における経営体当たりの経営耕地面積は耕地全体で見ると 2.1ha/経営体と市平均より低い水準ですが、畑に絞ると市平均よりも高い 1.6ha/経営体となっており、畑における大規模化・集約化が進展しているとみられます。地区全体として農業基盤の状況は悪く、特に丘陵部の畑についてはかんがい設備がないことなどから安定的な作付けが難しい状況といった問題を抱えています。

担い手の状況については、令和 2 年の農家数は 570 戸、農業経営体数は 425 件で、どちらも減少傾向にあります。

---

## 松尾地区

---

山武市の東部に位置し、九十九里浜から九十九里平野、そして下総台地の突端部を含む変化に富んだ地形に位置しています。

稲作や露地野菜が盛んで、養豚、乳用牛、肉用牛、養鶏などの畜産農家が多い点が特徴です。

耕地面積は 1,518ha で市全体の 26%を占めます。経営耕地面積は減少傾向で、特に畑の減少が目立つ状況です。経営体当たりの経営耕地面積は令和 2 年に 2.8ha/経営体で、市全体の平均より高い状況です。経営体当たりの経営耕地面積は拡大傾向にあり、経営体への集約化や大規模化が進んでいます。また、地区中央から南部にかけてのエリアは概ねほ場整備事業が完了しています。

担い手の状況については、令和 2 年の農家数は 463 戸、農業経営体数は 341 件で、どちらも減少傾向にあります。

## 蓮沼地区

---

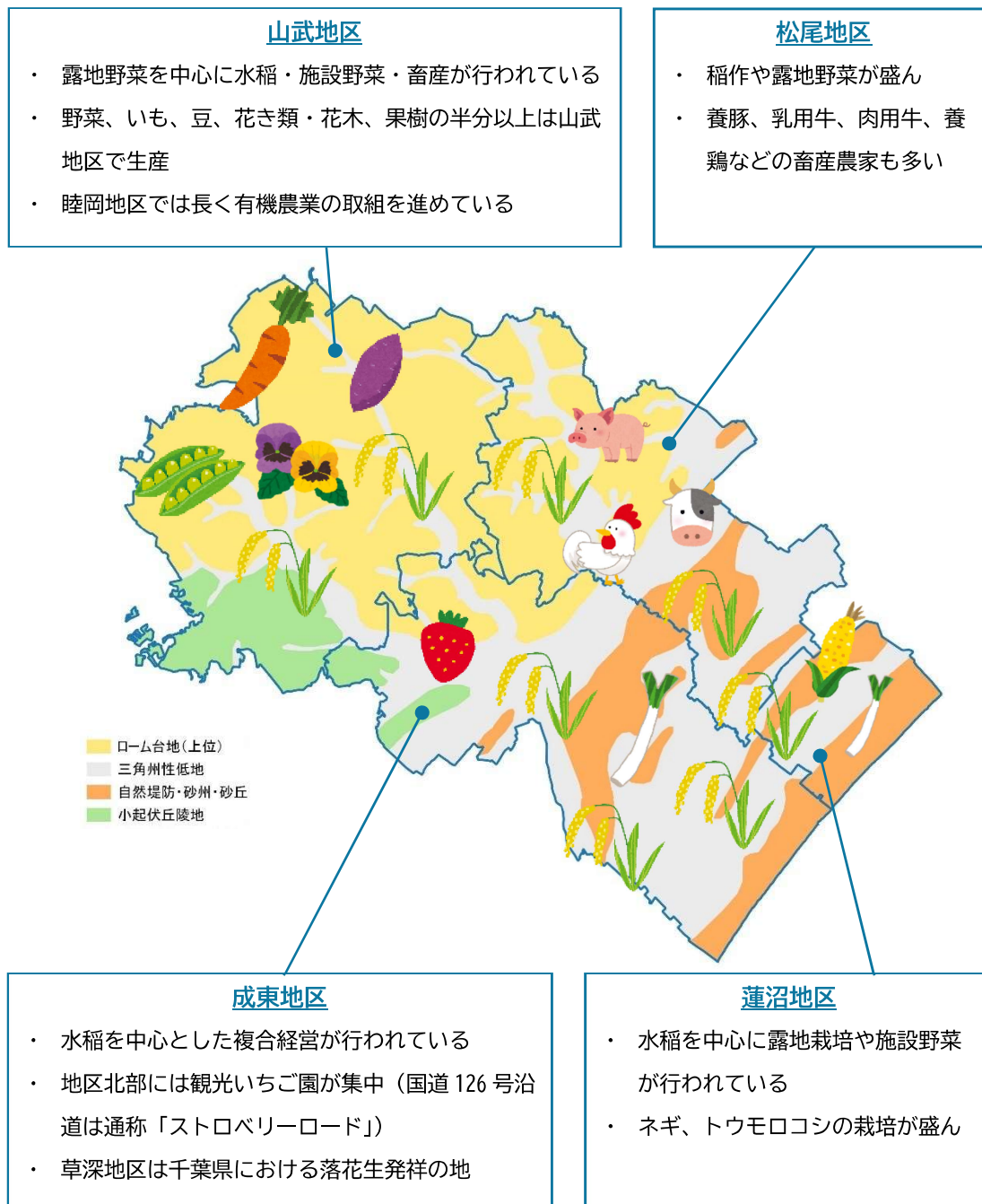
山武市の南東部の九十九里浜から九十九里平野にかかるエリアに位置し、概ね平坦な地形上に位置しています。また、地区内には山武市の主要な観光施設であり、地元でとれた農産物なども販売する道の駅オライはすぬまがあります。

水稻を中心に露地栽培や施設野菜等の複合経営が行われており、野菜に関してはネギやトウモロコシの栽培が盛んです。

耕地面積は 486ha で市全体の 9%を占めます。また、耕地面積の 56%は田です。耕地面積の推移をみると、他地区が減少傾向にある中、蓮沼地区は面積が横ばい傾向となっています。経営体当たりの経営耕地面積は 2020 年に 2.8ha/経営体で、市全体の平均より高い状況です。経営体当たりの経営耕地面積は拡大傾向にあり、経営体への集約化や大規模化が進んでいます。

担い手の状況については、令和 2 年の農家数は 175 戸、農業経営体数は 127 件で、どちらも減少傾向にあります。

図表 31 地形区分と地域別の主な農作物の分布

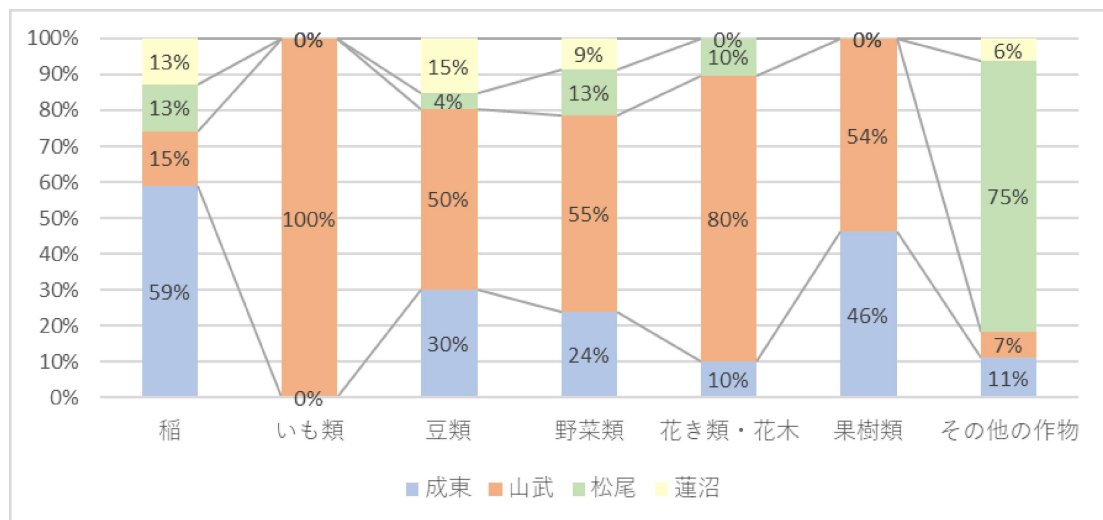


出典：「地形区分」土地分類調査・水調査（国土交通省）

図表 32 耕地面積と田畑別割合（令和 2 年）

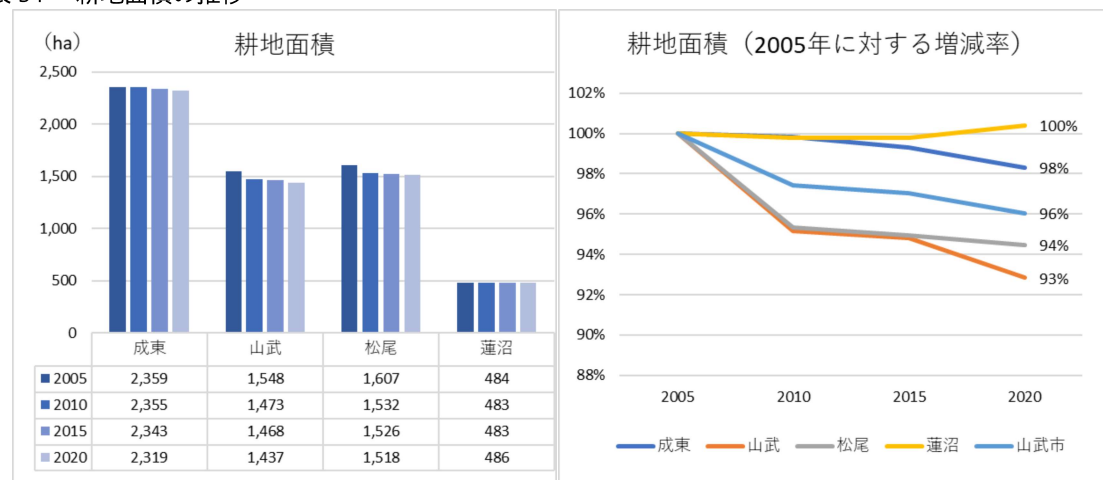
|      |    |    | 成東    | 山武    | 松尾    | 蓮沼   | 山武市   |
|------|----|----|-------|-------|-------|------|-------|
| 耕地面積 | 実数 | 田  | 1,490 | 339   | 937   | 274  | 3,040 |
|      |    | 畑  | 829   | 1,098 | 581   | 212  | 2,720 |
|      |    | 合計 | 2,319 | 1,437 | 1,518 | 486  | 5,760 |
|      | 割合 | 田  | 64%   | 24%   | 62%   | 56%  | 53%   |
|      |    | 畑  | 36%   | 76%   | 38%   | 44%  | 47%   |
|      |    | 合計 | 100%  | 100%  | 100%  | 100% | 100%  |

図表 33 販売目的で作付け（栽培）した作物の類別作付（栽培）面積（令和 2 年）



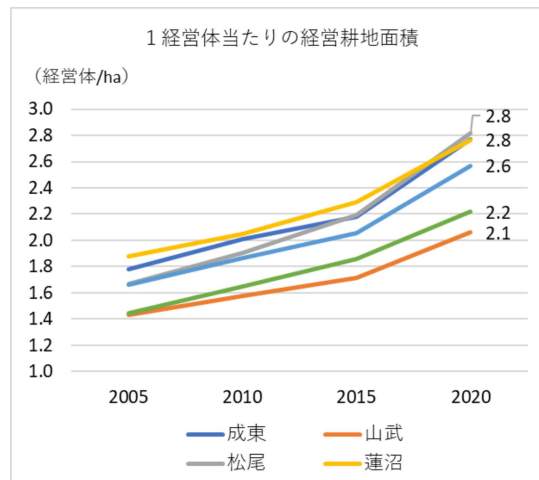
注） その他の作物：表にある稲から果実類に当てはまらない作物以外で、以下の定義に該当する作付または栽培作物  
 作付：種又は植付けしてからおおむね 1 年以内に収穫され、複数年にわたる収穫ができない非永年性作物  
 栽培：一度のは種又は植付け後、数年にわたって収穫を行うことができる永年性作物

図表 34 耕地面積の推移

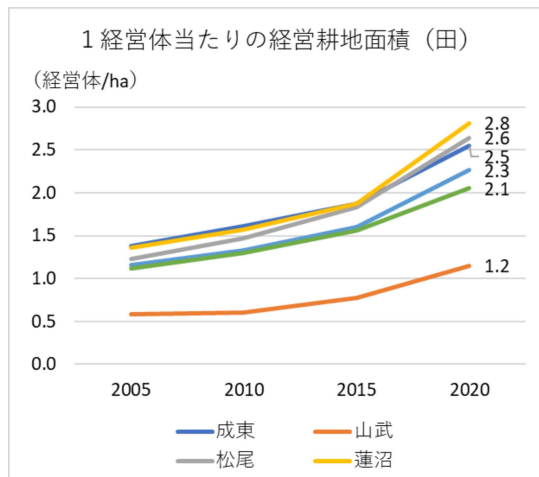


図表 35 経営体当たりの経営耕地面積の推移

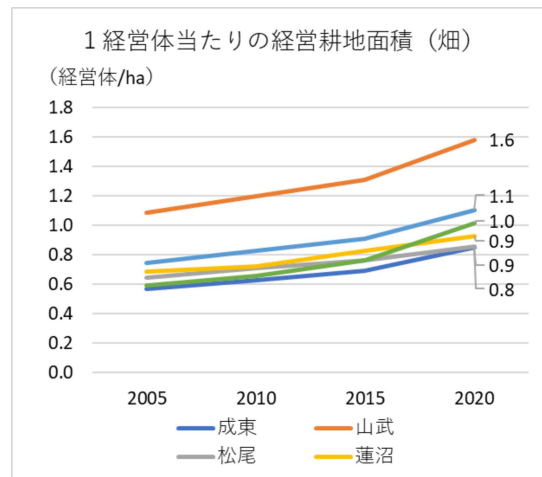
○全体



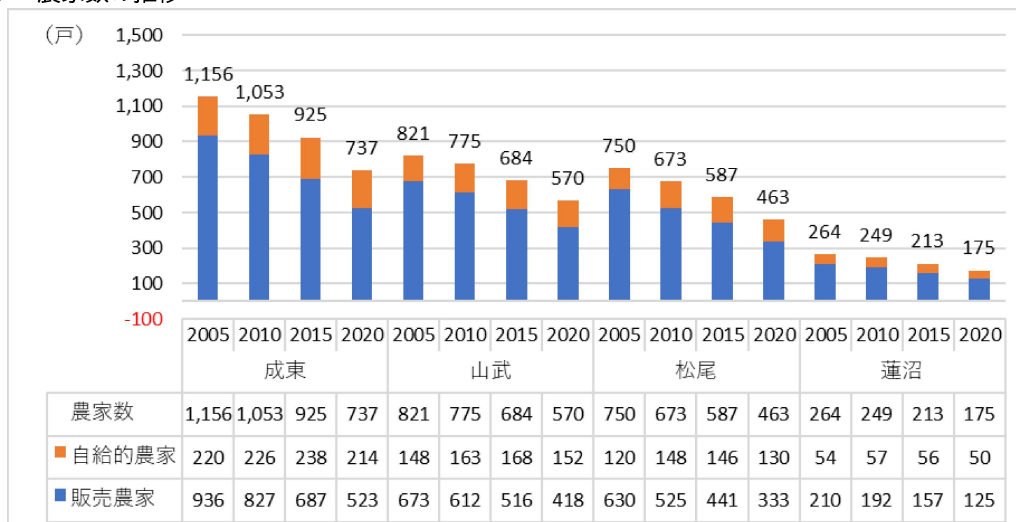
○田



○畑



図表 36 農家数の推移



出典：[図表 32～図表 36] 農林業センサス